

## 予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

### 事業名【新】朝市・直売所活性化支援事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産物流通課 地産地消係 電話番号：058-272-1111(内4066)

E-mail：c11444@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,000 千円 (前年度予算額：0 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	5,000	0	0	0	0	0	0	0	5,000
決定額	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

朝市・直売所は、新鮮で安心・安全な農産物を求める消費者ニーズをとらえ、県内各地域に開設されてきたが、コロナ禍の影響もあり販売額が減少している。また、肥料や燃料が高騰する中、農産物への価格転嫁が進まず、農業経営は厳しい状況にある。

そのような中、朝市・直売所は農業者自らが再生産可能な価格や規格を設定できる場であり、将来に渡り持続可能な農業を展開するためには、朝市・直売所の活性化は必要である。

### (2) 事業内容

#### ア 内容

朝市・直売所が実施する持続可能な農業を推進するための取組を支援する。

#### イ 事業主体

県内の農産物朝市及び直売所

### (3) 県負担・補助率の考え方

- ・地産地消の推進は重要施策であり、県負担は妥当。
- ・補助率：定額（上限50万円）

### (4) 類似事業の有無

- ・無し

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	5,000	朝市・直売所への補助
合計	5,000	

### 決定額の考え方

朝市・直売所への支援は各市町村においてなされていること、県としては既存事業で地産地消の取組みを支援していることから、計上を見送ります。

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

ぎふ農業・農村基本計画

#### (2) 安心して身近な「ぎふの食」づくり

##### ①地産地消県民運動の展開

地域ぐるみで取り組む地産地消県民運動の展開

### (2) 国・他県の状況

国：食料・農業・農村基本計画を策定。食料自給率を2030年に45%目標。  
価格転嫁の状況についてアンケート実施中。

他県：直売所ツアーなどで地元農産物の購入意識向上、価格転嫁について周知。

### (3) 後年度の財政負担

・地域農業が維持・発展、持続可能な農業を展開するためには、各朝市・直売所が活性化し続ける継続的な取り組みが必要。

### (4) 事業主体及びその妥当性

・地域農業の維持・発展、持続可能な農業を展開するためには、朝市・直売所の活性化が必要であるため事業実施主体は朝市直売所が妥当である。

## 県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

### (事業内容)

補助事業名	朝市・直売所活性化支援事業費補助金
補助事業者（団体）	県内の農産物朝市、直売所 （理由）県産農産物の販売促進、活用を推進している
補助事業の概要	（目的）農産物朝市・直売所の活性化  （内容）朝市・直売所が実施する持続可能な農業を展開するための経費を助成
補助率・補助単価等	定額 （内容）上限50万円  （理由）コロナ等の影響で直売所等の売上が減少していることから、定額補助が妥当
補助効果	朝市・直売所が活性化することで、農業者の所得向上や消費者への情報発信の場を確保できる。
終期の設定	終期5年度 （理由）物価高騰対策のため単年度事業

### (事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか  
・朝市・農産物直売所の活性化することにより、農業者の所得向上や消費者への情報発信の強化を図る。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R3)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R7)	
					達成率	
①朝市・直売所の年間販売額	149億円	—	151億円	154億円	159億円	—%

(これまでの取組内容と成果)

令和 2 年度	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和 3 年度	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和 4 年度	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

(事業の評価)

<p>・ <b>事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</b>  <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価)  3	<p>・ 肥料や農業用燃料などが高騰する中、農産物への価格転嫁が進まず農業経営は厳しい状況にある中、朝市・直売所は農業者自らが価格や規格を設定できる場であり、将来に渡り持続可能な農業を展開するために、朝市・直売所の活性化は重要度を増している。</p>
<p>・ <b>事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</b>  <small>3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり)                  2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成)                  1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%)                  0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</small></p>	
(評価)	
<p>・ <b>事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</b>  <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・ <b>事業が直面する課題や改善が必要な事項</b>                  ・ 肥料や農業用燃料などが高騰する中、農産物への価格転嫁が進まず農業経営は厳しい状況にある中、再生産可能な販売価格への転嫁について、県民の理解醸成を促す取組が必要である。</p>
---

(次年度の方向性)

<p>・ <b>継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</b></p>
---